



# おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2021年9月)



せんりひじり幼稚園  
副園長 安達かえで

## 「心の声を聴く」

コロナ感染が拡大する中、夏の間、家で過ごす毎日は本当に大変だったかとお察しします。ホームクラスの子どもたちは毎日来ていましたが、ホームクラス以外の子どもたちは早く幼稚園が始まらないかと、楽しみにしてくれていたかと思えます。

2学期を開始する前に、コロナ対策を今一度見直していますが、あれほど感染対策を徹底してきたにじいる保育園でも先月数名の感染がありました。保育園スタッフが、細やかに丁寧におもちゃや棚やトイレを消毒し、換気を心がけ、体温も何度も計測し、手洗いも徹底していたにもかかわらず、感染が広がりしばらく休園をしました。今以上の感染対策としてできうることを一つ一つ考え、保育者は子どもと一緒に食事をとらないなど更に対策を実施していますが、それでもまたいつ感染者が出るかわからない状況に、疲弊の色も出てきています。保育園の保護者の方々にはご心配をおかけしましたが、逆に「先生たちは対応が大変だったでしょう」や「世の中がこの状況だから感染があってもおかしくない」「よくやってくれている」など、ねぎらいの言葉や勇気づけられる言葉をかけてくださったと涙ぐんで話していました。ありがとうございます。

今、乳幼児もコロナ感染する状況で、教育保育の場において果たしてコロナをどこまで防ぐことができるのでしょうか。子どもの育ちのために、教育は止めてはいけないと思っていますが、教育保育の必要性和感染対策の必要性の狭間で、まだまだ模索が続く2学期です。どうかご理解ご協力をお願いします。

私事ですが、この夏は、娘が2人目の出産のために6月から里帰りをしていたので、約3か月、2歳3か月の孫のお相手をしながら、新生児のお世話をする生活でした。2歳児のイヤイヤ期はヨーロッパでは Terrible 2(恐怖の2歳)と呼び、自我が炸裂するややこしい時期です。こころ揺れ動く2歳児です。

靴を脱がせようとする、(自分で)と急に怒り出し收拾がつかなくなったり、かといって脱ぐのを待っていると「ばあばがやって！」と足を差し出してくるし・・・雨が降っていないのに傘をさして歩きたがって、それを止めようすると傘を振り回して怒ったり、前はたくさん食べていた枝豆を今日は「ダメ」と、全く手を着けない・・・などなど、子育て中のお母さんはほんとに大変だと思いました。

振り回されながら「食べるんかい～」「食べないんかい～」「やるんかい～」「やらんのかい～」と大人が口をそろえて言っていると、真似をして「やらんのかい～」と自分で言って笑っていました。

自分ではまだうまくできないけれど自分でできると思いたいのだろうなあ・・・、自分の思い描いたことと違うことが起きるとどうしたらいいか混乱するのだろうなあ・・・今はやりたくないだろうなあ・・・と孫の思いを受け止めながら、



どこで折り合いをつけてくれるか、どの言葉で気持ちを切り換えるのか・・・を試しています。おとなの言葉や態度によって、火が着いたように怒ったり、何もなかったかのように笑ったり、じいじもばあばも振り回されていますが、ゆっくり時間をかけて、穏やかに理由や状況を説明すると、理解してくれるようになってきました。しかし、これは時間と心の余裕がないと難しいですね。かわいい孫だから、イライラしないで待てるし、反応を楽しんでいるところもありますが、自分の子となるとこうはいかなかったなあと、何度も思い出しました。

先日、幼児教育実践学会のオンライン基調講演で、香川大学の松井剛太先生のお話を聞きました。「子どもの声を聴く実践と研究」という講演をされました。一人一人の幼児の言葉や行動や表情から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その子の良さや可能性を理解しようという研究です。

子どもから発する言葉を理解するには、子どもが発した言葉・その時の状況・それまでの状況・周りの人や物との関係性などを総合的に含めて、その子の思いを理解しますが、言葉そのものとは違った思いが隠されていることも多々あります。

人は、予測不可能なことが起きたり理解できないことがあると、不安になったりそのことを回避しようとする心情が働くことがあります。逆にわからないからわかりたい・・・そして、理解できると前に進もうという気持ちになります。子育て中は、子どもの考えていることがわからない・・・と感じることがあると思いますし、どうしたらいいかわからない状況が続くと、子育てに自信がなくなってきました。子どもの思いや育つ方向が「わかる」と、その先を予測して待つことができたり、余裕をもって関わるすることができます。そして子どもと関わるのが楽しくなってきます。(予測不可能だからこそ楽しい時もありますが。)

しかし、自分だけではその子ども理解や関わり方があっているのかどうか、わかりにくいですね。

私たちは毎月子ども理解のための会議をし、また、毎日、職員室で他の保育者の考えを聞いたり、情報を共有したりして子どもを理解しようとしています。

子育ても迷いの連続ですから、近くに子育て仲間がいて毎日子育ての話ができたらいいのかなあと思いますが、コロナの状況でそれが遮断されて、子育てが孤立化していることが非常に心配です。

香川大学の松井剛太先生は、(うちの園でもやっている)ドキュメンテーションやポートフォリオの活用を推奨されています。子どもの思いや育ちを保護者と共有するためのツールとして有効活用するために、再訪(revisit)される記録としてのドキュメンテーションやポートフォリオの活用方法を提案されています。

子どもの育った姿やそのプロセスの記録を真ん中に、保護者の方々と「あーだこーだ」おしゃべりしたり、語り合ったりすることが大切だなと感じました。

保護者の方と一緒に子どもを理解し、一緒に子どもを支えていく、そんな関係性をこれからも続けていきたいと思っています。そのためにも、早く安心して集まることができるようにコロナの終息を心から願っています。

皆様も くれぐれもお体ご自愛くださいね。

この先の予測が難しい2学期ですが、状況に応じて対応していきたいと思いますのでよろしく願います。